

第三章活用事例

小学校一・二年生版「心あかるく」 p.86
「よいこと」は「すすんでやること」 p.87

中心資料

「わたしたちの道徳」小学校一・二年
平成二十六年三月 文部科学省 「ぼんたとかんた」

【主題名】 よく考えよう

第一学年及び第二学年 1-③

「よいことと悪いこと」の区別をし、「よいこと」を進んで行う。

【ねらい】 自分でよく考え、「よいことと悪いこと」の区別をし、「よいこと」を進んで行うことができる態度を育む。

《ねらいと学習の道徳的価値》「よいこと」一・二年生の時期の児童は、もってよいことと悪いことを判断することが難しい段階にいます。行ってよいこととしてはなにかを区別できる力を、日常生活の様々な場面と関連付けて継続的に指導する必要があります。よいことと悪いことを進んで行うことができるよう励まして、正しいことを勇気をもって行ってよいこととする態度を身に付けさせることが大切です。

導入



「学校ではいけないことは、どのようなことがあるでしょうか。」

○日常生活を振り返りながら、ねらいとする道徳的価値への導入をしましょう。

○教師が「ぼんた」と「かんた」を読み聞かせましょう。



「かんたが裏山に入っていくってしまい、一人になったとき、ぼんたはどのようなことを考えたでしょうか。」

○かんたのように遊びたいという思いと、入ってはいけないと言われていることを守ろうとする思いとの間で揺れているぼんたの心情を捉えさせましょう。



中心発問

『ぼくは いかないよ。だって あぶないから。』と大きな声で言ったとき、ぼんたはどのようなことを考えていたでしょうか。」

○ぼんたが、よいことと悪いことの区別をし、勇気を出して大きな声で自分を励ましながら、よいと思う行いをしようとしていることを捉えさせましょう。

《評価》 よいことと悪いことを区別し、勇気をもってよいと思う行いをしようとするこの大切さに気付くことができたか。



「ぶらんこにゆられながら、ぼんたとかんたはどのようなことを話しているでしょうか。」

○勇気をもってよいと思ったことを行うことの気持ちよさに気付かせましょう。



「みんなは、どのような勇気もちたいですか。」

○「心あかるく」 p.86 「よいことは すすんで やろう」を活用して、どのようなときにどのように行動すればよいかを考えさせましょう。また、これまでに勇気をもって行動できた体験を記入させ、これからの生活への意欲につなげさせましょう。

○教師自身が、勇気をもって正しいと思う行いをした体験を、子供たちに語りましょう。

○「心あかるく」 p.65 p.7 「おまじない みみずみつお」をみんな読んで、自分で自分を励ましていけることを確かめて、授業の最後にしましょう。

板書例

ぼんたと かんた

かんたが うらやまに はいって行ってしまい ひとりになったとき、 ぼんたは どのようなことを おもったでしょうか。

かんたが裏山に入っていく挿絵

- たのしそうだな。ぼくもはいつて、いっしょにあそびたいな。
- うらやまにはいつてはいけないといわれているから、それをまもらないといけない。
- ぼんたはひとりで行ってしまっだけれど、だいじょうぶかな。

『ぼくは いかないよ。だって あぶないから。』と大きな こえで いったとき ぼんたは どのような きもちだったでしょうか。

ぼんたが大きな声で叫んでいる挿絵

- やっぱり、はいってはいけないといわれているところには、はいってはいけないんだ。
- かんたはいつていつてしまったけれど、ぼくはいかないってきめたんだ。
- はいってはいけないということを、かんたにもつたえないといけない。

ぶらんこに ゆられながら、ぼんたとかんたは どのようなことを はなしているでしょうか。

二人がぶらんこに乗っている挿絵

- いけないことはいけないってじぶんできめることができてる、きもちがいいね。
- これからも、じぶんたちでしっかりかんがえて、たのしくあそぼう。
- ともだちがやってはいけないことをしようとしていたら、いけないよっておしえてあげよう。

みんなは、どのような ゆうきを もちたいですか。

- じゅぎょうちゅうに さわいでいる ともだちがいたら、ちゃんと じゅぎょうを うけようという。
- ろうかをはしっている ともだちが いたら、あびないからはしるのは やめようと おしえてあげる。
- でんしゃや バスに おとしよりが のってきたら せきを ゆずる

《評価》

自分でよく考え、よいことと悪いことの区別をし、よいことを行う態度を育むことができたか。

終末